

平成30年度 第1回校内授業研究会

日 時 平成30年7月3日（火）
場 所 中学部第2学年教室
研究授業 中学部 生活単元学習
授業者
職氏名 教諭 森下 愛美
指導助言 広島県立教育センター
特別支援教育・教育相談部
指導主事 塚本 理恵 氏

<研究協議の流れ>

- ① 授業者からの振り返り
- ② ビデオでの振り返り
- ③ 6人一組で協議の柱に基づき協議
- ④ 全体共有
- ⑤ 指導助言者からの助言



授業の概要

『夏の生活』という単元の授業でした。夏休みの過ごし方の計画として夏休み帳を作った。夏休み中の行事を体験しつつ、夏休み帳を作るという流れで進めた。

<授業者からの振り返り>

～学習評価説明シートを活用して～

一人ずつに4段階での評価基準を設定したことで生徒の目標達成状況がわかりやすかったです。生徒実態に合わせて教材・教具を変えたことで意欲的に体験活動ができ、目標の達成につながったのではないかと思います。形成的評価については、動きの指示を簡単な言葉で伝え、活動ごとに即時評価したことで生徒の学習意欲につながったと思います。

<全体協議>

- ① 課題発見・課題解決の場面で、生徒が思考したり判断したり、目的を意識して行動したりしていたか。
 - ・音がでるもの（太鼓や鈴）を用いたことは対象生徒にとって変化がわかりやすく、有効だったのではないかと。
 - ・活動をもう一度行うかどうかの選択の場を設けたことにより生徒の思考を促すことができていた。
 - ・生徒の意思の表出を待つことで、生徒の考えを引き出すことができていた。
 - ・的当ての活動では、生徒が指導者からの言葉掛けに反応し、活動内容を予測できている様子が見られた。
- ② 形成的評価を取り入れたことで、生徒が目標を意識して行動したり課題解決が図れたりしたか。
 - ・指導者が、生徒の動作を真似するなどしながら評価していたことにより、生徒にとってわかりやすい評価になっていた。
 - ・指導者から称賛による即時評価を受けた際に、生徒が指導者と顔を見合わせて嬉しそうな表情を浮かべている姿が見られ、次の活動への意欲へつながっていた。
 - ・細かく生徒の反応を確認し、評価していたことで、その都度生徒の意思の表出があった。

<指導助言者から>

- ・課題発見・解決の観点では、活動量や活動時間をあえて短めに設定することで、生徒が「もっとやりたい」と感じ、より学習意欲の向上につながるという方法も考えられる。
- ・楽器やバチの種類等を選択する場面を多く取り入れると、生徒の思考や学びがより深まったのではないかと。
- ・形成的評価の観点では、言葉の精選がなされており、「せーの、ポン！」等の生徒にとってわかりやすい言葉掛けであったことにより、生徒の次への活動につながっていた。
- ・的当ての活動では、的が倒れる「ガシャン！」という音も活動のフィードバックになっていた。
- ・“夏休みの行事を体験する”⇒“夏休み帳を作る”という流れの授業であったが、“夏休み帳は前の授業で作っておく”⇒“行事を体験する”⇒“夏休み帳で振り返る”という流れであれば、より深い学びになったのではないかと。
- ・生徒の興味や身近にあるもの、実生活に般化できる活動を意識して授業作りを行うとよい。

<指導助言を受けて>

- ・生徒が選択する場面を設定する等してより思考力、判断力に基づいた目標を設定していきたいです。
- ・深い学びを目指し、生徒の興味や身近にあるもので般化できるような学習設定を行い、活動内容や活動時間を工夫していきたいです。
- ・形成的評価については、言葉の精選を行いながらそのまま継続していきたいと思えます。